

財務諸表分析検定試験 補充問題 〔第1問〕

問題1 次の文章の□1から□8の中に入る適当な語句を下の〔語群〕のなかから選び、その記号を解答欄に記入しなさい。同じ記号（語句）を2回以上用いてもよい。

財務諸表分析では、主に企業の収益性や安全性について分析を行う。

企業の収益性を分析する場合、財務諸表のうち、一定時点での資産・負債・純資産の状態を示す□1と、一定期間の業績を示す□2の数値の両方を利用する方法と、□2のみの数値を利用する方法がある。

このうち、企業の経営者の立場から、□2のみの数値を用いて分析する際は、営業活動にとって重要な□3や、当期業績主義の利益に基づく□4などの分析指標が使用される。

企業の安全性を分析する場合、主に□1の数値が利用される。□1を用いた分析はさらに、短期的な安全性を求めるものと、長期的な安全性を求めるものに大別される。

このうち、短期的な安全性を求める際には、□1のうち、営業循環過程のなかにあるか、または通常1年以内に現金化される資産である□5や、営業循環過程のなかにあるか、または通常1年以内に支払義務が生じる負債である□6、及びこれらに属する項目の数値を用いる。例として、「銀行家比率」ともいわれる□7や、「酸性試験比率」ともいわれる□8があげられる。

〔語群〕

ア. 総資産負債比率 イ. 貸借対照表 ウ. 損益計算書 エ. キャッシュ・フロー計算書
オ. 株主資本等変動計算書 カ. 売上高営業利益率 キ. 総資産当期純利益率
ク. 流動資産 ケ. 流動負債 コ. 固定負債 サ. 株主資本 シ. 流動比率 ス. 当座比率
セ. 株主資本当期純利益率 ソ. 経常収益経常利益率 タ. 固定長期適合率

問題2 A社、B社の収益性に関する指標は次の〈資料〉のとおりである。〈資料〉をもとに、A社とB社の収益性について比較分析した下の文章の□1から□10のなかに入る適切な語句を下記の〔語群〕のなかから選び、その記号を解答欄に記入しなさい。なお、同じ用語を2回以上用いてもよい。

〈資料〉

	A社	B社	
総資産当期純利益率	8.4%	5.0%	
株主資本当期純利益率	27.5%	10.2%	
売上高対営業資産	1.5回	1.1回	(営業資産回転率)
売上高売上総利益率	20.4%	35.9%	
売上高営業利益率	7.1%	20.9%	
経常収益経常利益率	9.3%	14.7%	

〈資料〉より、総資産当期純利益率や株主資本当期純利益率は、A社がB社より□1ことが読み取れる。このことから、□2の方が企業に投下されている資産や、株主の出資した資本を効率的に運用していることが読み取れる。

売上高対営業資産比率をみると、A社の方がB社より□3数値を示している。したがって、この観点からも、前の利益率と同様、□4の方が資産を効率的に活用しているといえる。

売上高売上総利益率や売上高営業利益率は、A社の方がB社より□5数値を示している。よって、営業上の利益の獲得の能力という点からみれば、□6の方が優れていると考えられる。

さらに、売上高営業利益率と経常収益経常利益率を比較すると、A社は前者より後者が高く、逆にB社は前者より後者が低くなっている。このことからA社には、多額の□7や受取配当金などの□8があり、B社には多額の□9や有価証券運用損などの□10が存在しているものと推測される。

〔語群〕

ア. A社 イ. B社 ウ. 高い エ. 低い オ. 安定性 カ. 能率性 キ. 固定資産売却益
ク. 固定資産売却損 ケ. 受取利息 コ. 支払利息 サ. 設備などの減価償却費
シ. 特別利益 ス. 特別損失 セ. 営業外収益 ソ. 営業外費用

問題3 次の問1，問2に答えなさい。

問1 次の〈資料〉に基づき，C社，D社の安全性に関する以下の分析指標を求めなさい。

- ① 流動比率
- ② 当座比率
- ③ 総資産負債比率
- ④ 固定長期適合率
- ⑤ 売上債権回転率

(注意事項)

- 1. ①から⑤の数値は計算結果のみを解答すること(計算式は不要)。
- 2. 答えは，小数点第2位を四捨五入すること。

問2 問1の①から⑤の各分析指標の数値を踏まえて，解答欄に示した総合的な判断を記入するとともに，この総合的な判断に至った理由を次のヒントにもとづいて，簡単に答えなさい。

ヒント1

 短期的な支払能力はどうですか。

ヒント2

 長期的な支払能力はどうですか。

(資料)

要約連結貸借対照表

(単位：百万円)

	C 社	D 社		C 社	D 社
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	50,000	60,000	支払手形及び買掛金	26,000	200,000
受取手形及び売掛金	25,000	180,000	短期借入金	—	250,000
製品及び仕掛品等	10,000	130,000	未払金	1,000	20,000
その他	3,100	50,100	未払費用	7,000	10,000
貸倒引当金	△100	△100	その他	3,000	20,000
流動資産合計	88,000	420,000	流動負債合計	37,000	500,000
固定資産			固定負債		
有形固定資産			社債	—	150,000
建物・構築物(純額)	16,000	140,000	長期借入金	—	410,000
機械装置(純額)	30,000	220,000	退職給付に係る負債	7,000	10,000
土地	12,000	150,000	その他	1,000	30,000
その他	3,500	37,000	固定負債合計	8,000	600,000
有形固定資産合計	61,500	547,000	負債合計	45,000	1,100,000
無形固定資産	1,000	3,000	純資産の部		
投資その他の資産			株主資本		
投資有価証券	8,500	450,000	資本金	30,000	250,000
長期貸付金	500	80,000	資本剰余金	29,000	60,000
その他	500	50,000	利益剰余金	51,600	75,500
貸倒引当金	—	△30,000	自己株式	△100	△500
投資その他の資産合計	9,500	550,000	株主資本合計	110,500	385,000
固定資産合計	72,000	1,100,000	その他の包括利益累計額		
			その他有価証券評価差額金	1,500	25,000
			その他の包括利益累計額合計	1,500	25,000
			非支配株主持分	3,000	10,000
			純資産合計	115,000	420,000
資産合計	160,000	1,520,000	負債純資産合計	160,000	1,520,000

※期首売上債権：C社 23,100百万円

D社 177,000百万円

要約連結損益計算書

(単位：百万円)

	C 社	D 社
売上高	130,000	700,000
売上原価	115,000	570,000
売上総利益	15,000	130,000
販売費及び一般管理費	13,500	57,000
営業利益	1,500	73,000
営業外収益	1,600	11,000
営業外費用	400	28,000
経常利益	2,700	56,000
特別利益	100	8,000
特別損失	1,000	35,000
税金等調整前当期純利益	1,800	29,000
法人税、住民税及び事業税	200	4,500
当期純利益	1,600	24,500
非支配株主に帰属する当期純利益	100	1,000
親会社株主に帰属する当期純利益	1,500	23,500

問題 4 いずれも同業種である E 社、F 社の株価収益率 (PER)、株価純資産倍率 (PBR) 及び現在の株価は次の〈資料〉のとおりである。

この〈資料〉をもとに E 社と F 社の株価について分析した下の文の から に入る適当な語句を下記の〔語群〕のなかから選び、その記号を解答欄に記入しなさい。なお、同じ用語を 2 回以上用いてもよい。

〈資料〉

	E 社	F 社
純資産 (百万円)	400,000	100,000
発行済株式総数 (百万株)	2,000	50
来期の予想当期純利益 (百万円)	20,000	10,000
現在の株価 (円)	500	2,000
株価収益率 (倍)	50	10
株価純資産倍率 (倍)	2.5	1

同業種であっても会社規模が異なるため、単純に、貸借対照表の〔1〕の金額や損益計算書の〔2〕の金額を比較しても、どちらの企業の株価が割高か、割安かを判断することはできない。また、株価のみをみて、株価の〔3〕企業の方が株価が割高である、ということにもならない。

そこで、企業の株価が割高か割安かを判断するためには、1株当たりの〔4〕に対して〔5〕が何倍まで買われているかを表す株価収益率や、1株当たりの〔6〕に対し〔7〕が何倍まで買われているかを表す株価純資産倍率が用いられる。

株価収益率や株価純資産倍率で比較すると、E社よりF社の方が〔8〕のため、相対的に〔9〕の方が株価が安いと判断される。

〔語群〕

ア. 高い イ. 低い ウ. E社 エ. F社 オ. 配当金 カ. 製造原価 キ. 当期純利益
ク. キャッシュ・フロー ケ. 純資産 コ. 発行済株式総数 サ. 株価

補充問題〔第1問〕 解答用紙

問題 1

1		2		3		4	
5		6		7		8	

問題 2

1		2		3		4		5	
6		7		8		9		10	

問題 3

問 1

	比 率 名	C 社	D 社
①	流動比率		
②	当座比率		
③	総資産負債比率		
④	固定長期適合率		
⑤	売上債権回転率		

問 2

総合的に判断すると、安全性において（ ）社の方が、優れている。

理 由

問題 4

1		2		3		4		5	
6		7		8		9			